

新・内科専門医制度 説明会

～内科専門医研修プログラムのことを中心に～

新しい内科専門医制度における 地域医療への取り組み

愛知医科大学 医学教育センター
(内科専門医部会・地域医療教育WG)

宮田靖志

日本内科学会 COI 開示

宮田靖志

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

新しい内科専門医制度における 地域医療への取り組み

- ① 地域医療とは何か？
- ② 医療ニーズからみた地域医療
- ③ 申請プログラムにみられる地域医療への
取り組み
- ④ 地域医療研修カリキュラムの提案

地域医療に十分に配慮した制度設計

- 基本診療領域の専門医制度においては、「**地域で研修を行い、地域医療の経験を積む事の重要性**」を専門医制度整備指針に明確に記載
- 研修施設群形成にあたっては地域での連携を推進し、「**専門医制度地域連絡協議会**」などの設置を求め、「**地域で医師を育てる**」との考えを強調
- 機構社員である全国医学部長病院長会議，日本医師会、四病院団体協議会なども「**地域医療に配慮した専門医制度の構築**」に向けた協力体制の重要性についてのステートメントを発出している

Q:地域医療の経験は？

専門医制度整備指針：基本領域の専門医制度においては、**地域を実際に研修する機会**があることが重要

- それぞれの地域で必要な地域医療研修を組み立てる
 - **地域包括ケア、病・病連携や病・診連携等々の地域密着型研修**
 - **へき地医療研修**
 - **指導医の在籍がない離島などの研修**

指導医の定期的な訪問、テレビシステムなどで常にコンサルト

- 期間と内容については、それぞれの領域研修委員会の見識に委ねる

専門研修プログラム認定までの調整方針（案）

■ 専門医機構

診療領域ごとの地域医療に配慮したプログラム内容の審査

- 大病院だけ／特定の医療グループだけで構成されるプログラムの是正
- **必要な地域医療の研修が含まれていることを確認・調整**
- 過去5年間に研修実績のある医療機関が連携施設に入るよう調整
- 診療領域ごとに、研修施設のない二次医療圏が出ないよう調整

新・内科専門医制度に向けて



- 新・内科専門医制度の背景と目的
- 新・内科専門医の医師像
- 新・内科指導医の医師像
- 1. 認定医制度審議会将来構想会議での新しい専門医制度の検討
- 2. 新・内科専門医制度の受験資格
- 3. 現行制度と新・内科専門医制度との相違・移行関係図
- Q & A
- 新・内科専門医制度の実施(新・内科専門医および新・内科指導医に向けた行程表(案))

一般社団法人 日本内科学会

2013年11月

新・内科専門医の医師像

標準的診療能力を有する総合内科医

新・内科専門医とは、適切な診断と治療をもって一定数以上の内科症例を経験し、かつ医師としての倫理観と安全に関する知識を有し、内科全般にわたる標準的な知識と技能を修得した、チーム医療のマネージャーとして全人的な診療にあたる医師のことである。

その資格取得には、内科200症例以上を経験し、そのうち各内科領域について2例ずつ病歴要約を提出することが求められる。提出した病歴要約は査読を受け、さらに筆記試験を合格することにより、新・内科専門医として認定される。研修には初期研修を含め、5年を要する。*詳細については現在、検討中である。

この新・内科専門医は内科関連subspecialty専門医を取得する際に必要な基盤となる資格である。そして内科を標榜するものとして、継続的に最新の知識・技術を生涯にわたり学習することで維持されるべきものである。

新・内科専門医の医師像として、具体的には次頁のような形態が考えられる。

地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)

地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする総合内科診療の専門医

内科系救急医療の専門医

内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療の専門医

病院での総合内科(generality)の専門医

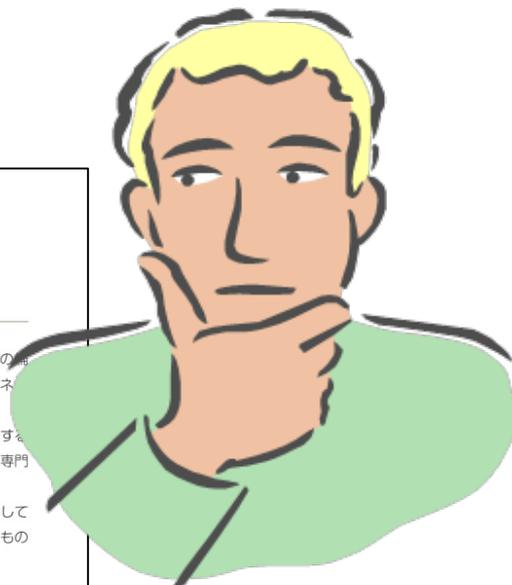
病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備えた総合内科(generalist)の専門医

総合内科的視点を持ったsubspecialist

病院での内科系のsubspecialtyを受け持つ中で、総合内科(generalist)の視点から、全人的、臓器横断的に診断・治療を行う基本的診療能力を有する内科系subspecialist

*それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることもあると思われる。いずれにしても内科医としてgeneralなマインドが重要である。

新・内科専門医制度に向けて



新・内科専門医の医師像

標準的診療能力を有する総合内科医

新・内科専門医とは、適切な診断と治療をもって一定数以上の内科症例を経験し、かつ医師としての倫理観と安全に関する知識を有し、内科全般にわたる標準的な知識と技能を修得した、チーム医療のマネージャーとして全人的な診療にあたる医師のことである。

その資格取得には、内科200症例以上を経験し、そのうち各内科領域について2例ずつ病歴要約を提出することが求められる。提出した病歴要約は査読を受け、さらに筆記試験を合格することにより、新・内科専門医として認定される。研修には初期研修を含め、5年を要する。*詳細については現在、検討中である。

この新・内科専門医は内科関連subspecialty専門医を取得する際に必要な基盤となる資格である。そして内科を標榜するものとして、継続的に最新の知識・技術を生涯にわたり学習することで維持されるべきものである。

新・内科専門医の医師像として、具体的には次頁のような形態が考えられる。

地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)

地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に医学と日常診療を任務とする総合内科診療の専門医

内科系救急医療の専門医

内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含め

病院での総合内科(generality)の専門医

病院での内科系診療で、内科系全般領域に広範囲から診断・治療を行う能力を備えた総合内科(generality)

総合内科的視点を持ったsubspecialist

病院での内科系のsubspecialtyを受け持つ中で、総合内科的視点を持って診断・治療を行う基本的診療能力を有する内科医
*それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらの中からいずれにしても内科医としてgeneralなマインドが重要

新・内科指導医の医師像

新・内科専門医以上の総合的な内科診療能力に加え、下記の教育・啓発・指導・研究に貢献する内科医。新・内科専門医資格取得後に一定の研修を経て、指導医としての活動性と研修内容の評価により認定される。新・内科指導医の医師像として、具体的には以下のような形態が考えられる。

卒前教育、研修の担い手としての臓器横断的内科(generalist)の指導医

学生・研修医に対して、臓器からの視点のみでなく全身を機能的に診る教育者や、総合内科的研究領域の指導医としての役割を担う。すなわち、内科領域の卒前教育、プライマリ・ケア能力の修得を目的とした初期臨床研修制度における内科的教育、総合内科の後期研修など全ての内科系医師教育・研修において、subspecialtyの視野でなく、全人的・臓器横断的視野から診断・治療についての教育を行うことができる医師。

地域における内科系診療ネットワークのリーダー、生涯教育の担い手

医院・クリニック、一般病院、基幹病院、大学病院をつなぎ、連携の要となる内科系診療ネットワークの中で、総合内科に関する知識・技術・判断力・人間性・経験・指導能力を高度に備えた指導医的医師。また、地域における内科系の生涯教育の中心となる指導的立場にある医師。

臨床医学の横断的領域として内科学を総合的に捉える研究者

臨床診断学、臨床疫学、医療情報学、臨床薬理学、医療倫理学、医療経済学、医療社会学などの内科における横断的・統合的領域の研究・教育能力を有する専門医・研究者。

- 新・内科専門医制度の背景と目的
- 新・内科専門医の医師像
- 新・内科指導医の医師像
- 1. 認定医制度審議会将来構想会議での新しい専門医制度の検討
- 2. 新・内科専門医制度の受験資格
- 3. 現行制度と新・内科専門医制度との相違・移行関係図
- Q & A
- 新・内科専門医制度の実施(新・内科専門医および新・内科指導医に向けた行程表(案))

一般社団法人 日本内科学会

2013年11月

新しい内科専門医制度における 地域医療への取り組み

- ① 地域医療とは何か？
- ② 医療ニーズからみた地域医療
- ③ 申請プログラムにみられる地域医療への
取り組み
- ④ 地域医療研修カリキュラムの提案

地域とは

- 地域 ⇒ コミュニティ（当該地域・集団）
- 地理的な関係などのある種の関係性を共有し、資源や施設を共有する人々の集団。
- 何らかの健康問題など特定の要素を共有する人々の集団。

コミュニティとは？

何らかの社会的組織や結束により一緒に暮らす人々

WHO. Alma-Ata 1978

私がケアするコミュニティは・・・

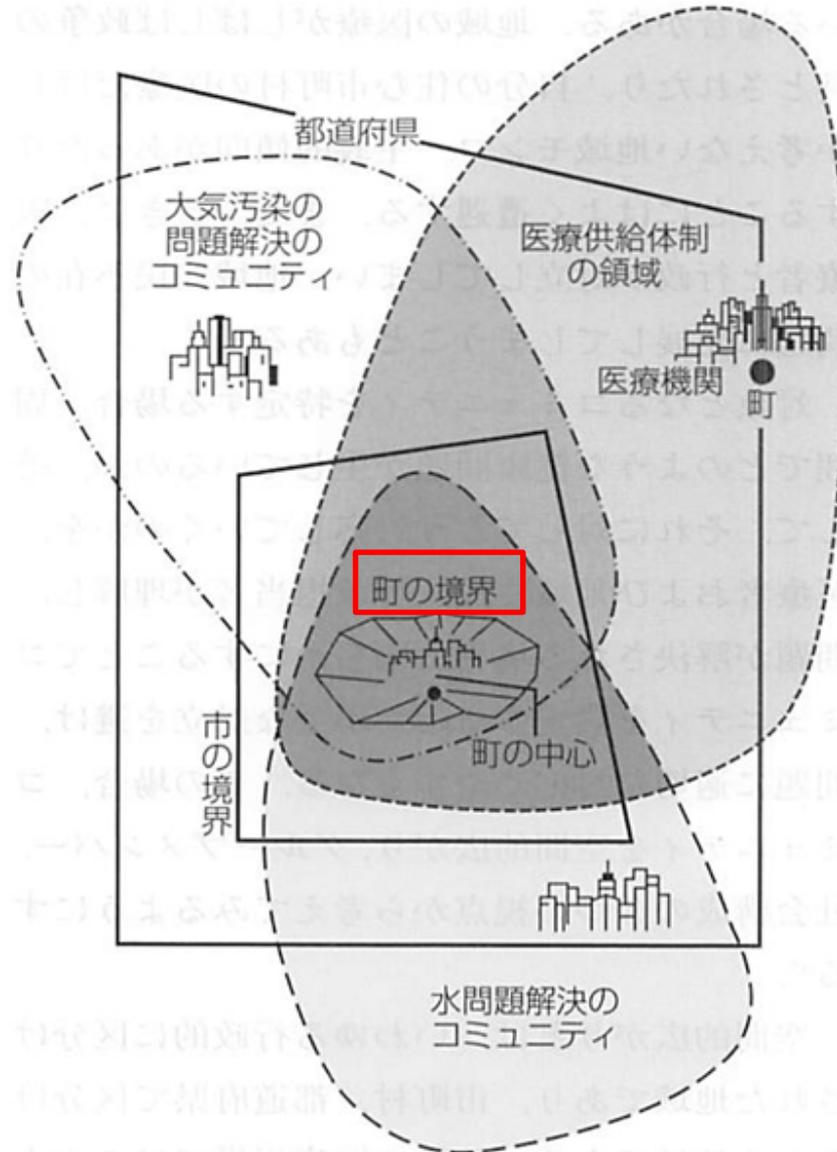
へき地



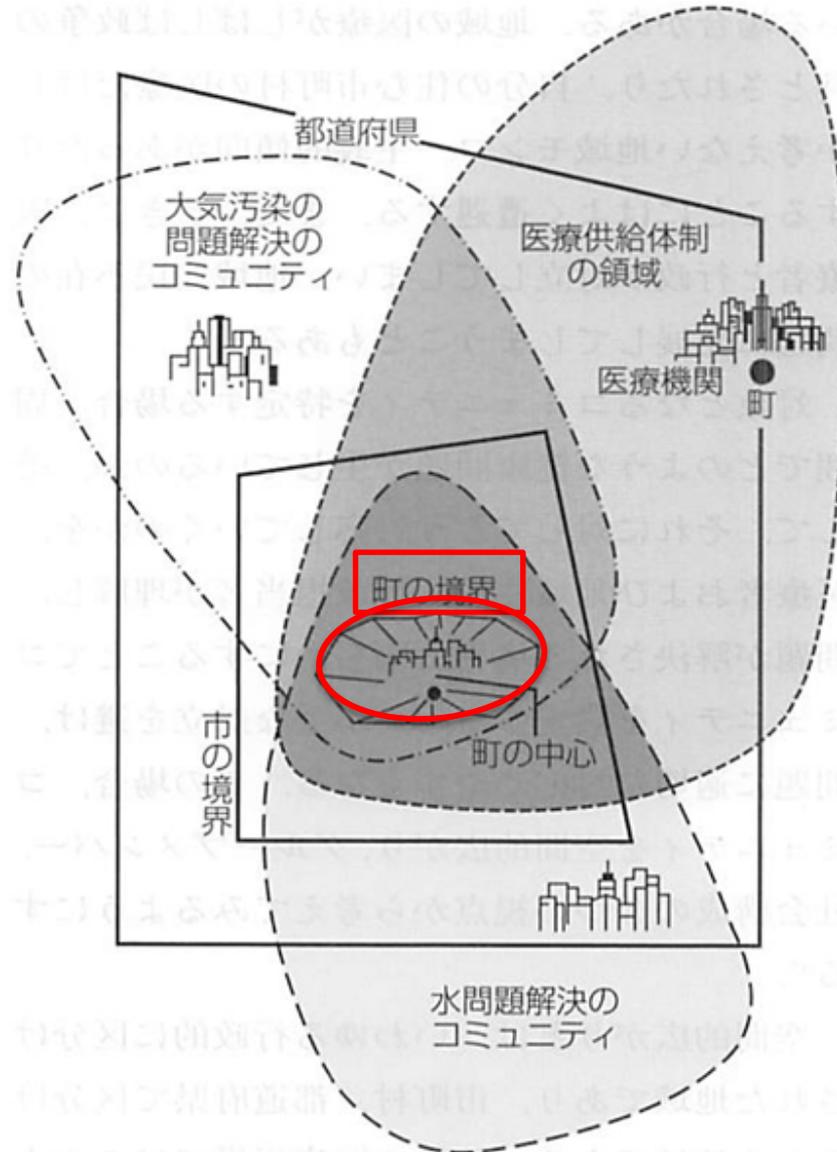
都市部



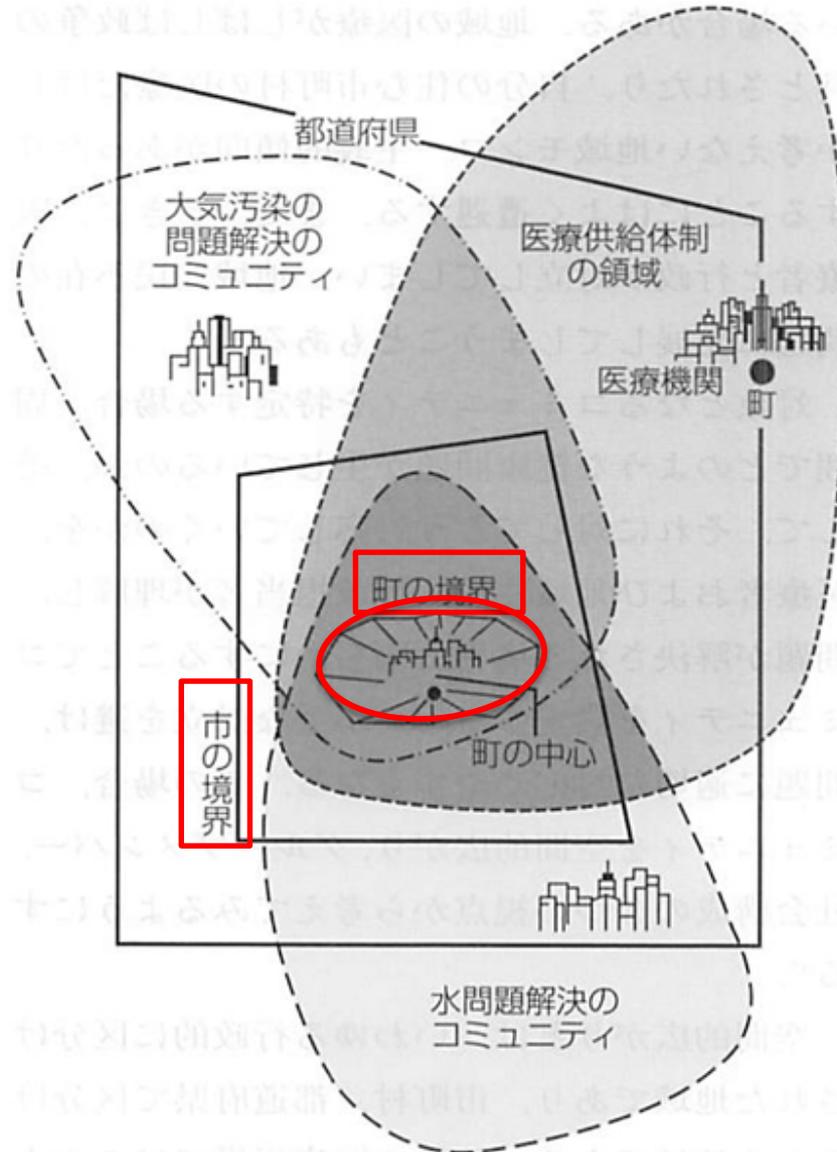
問題解決のコミュニティ



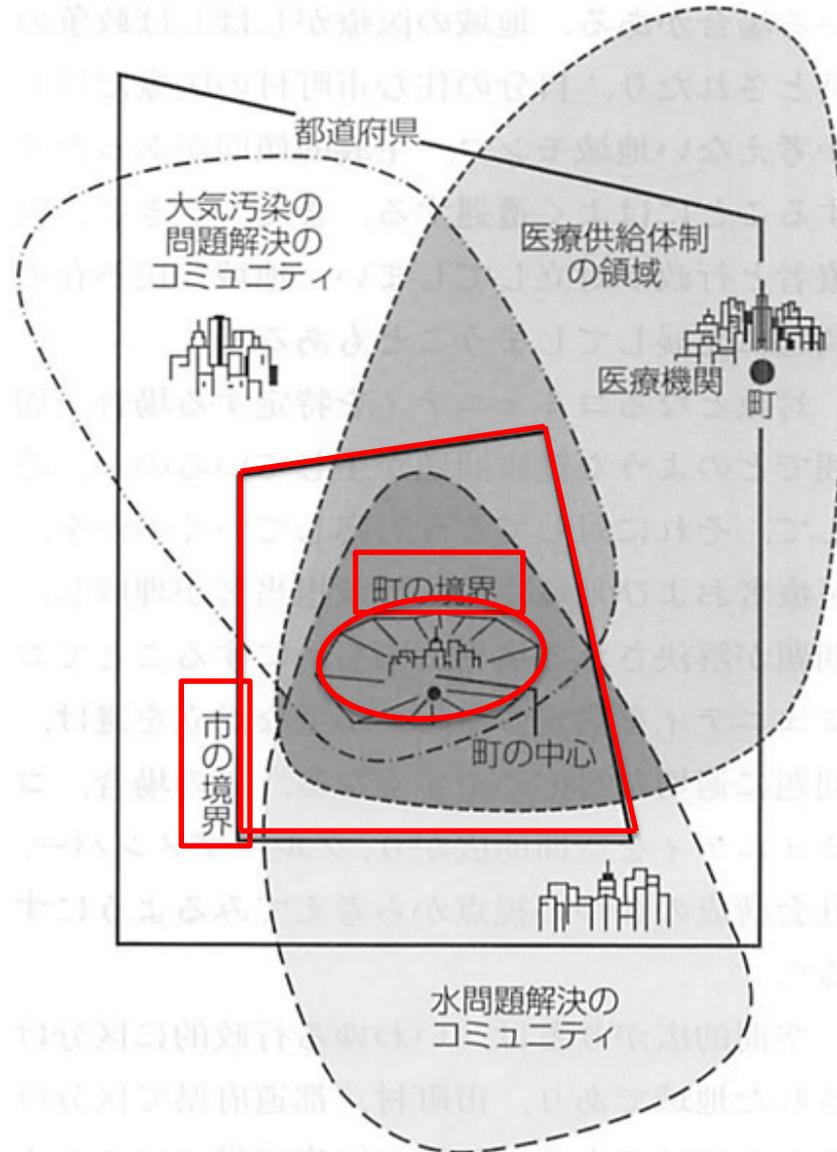
問題解決のコミュニティ



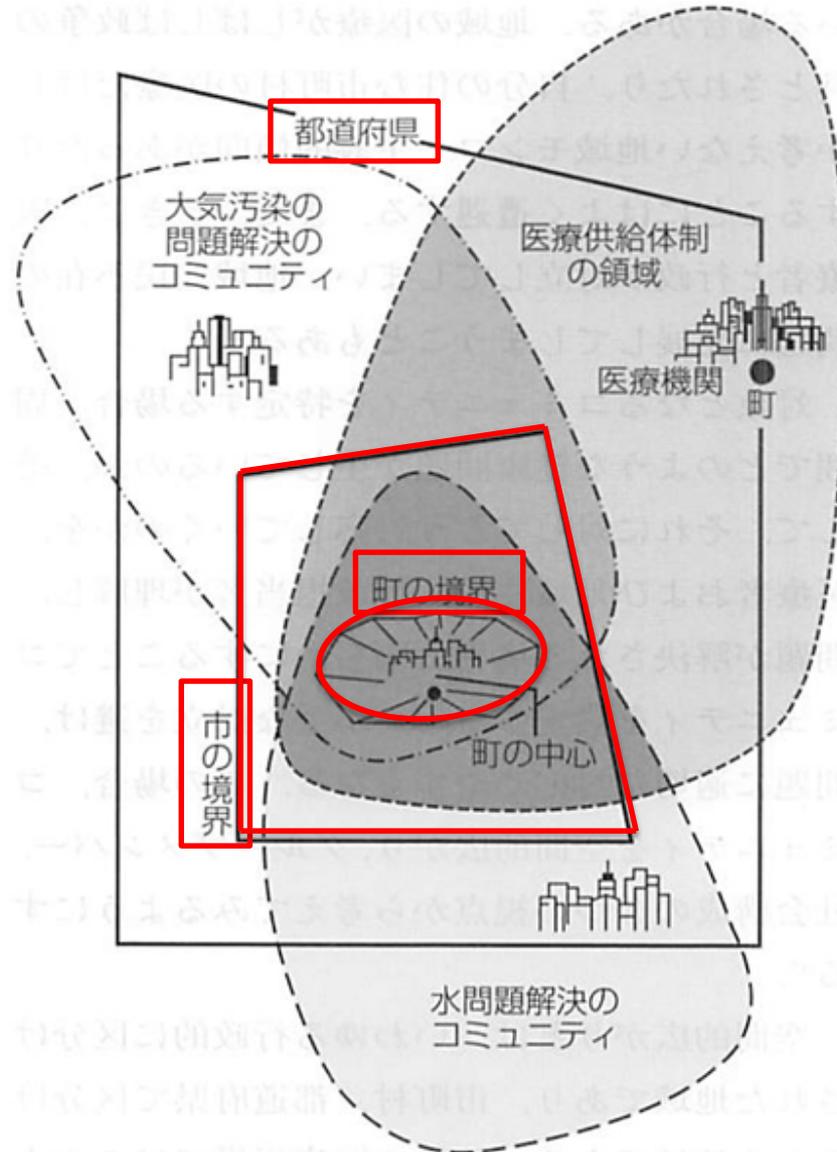
問題解決のコミュニティ



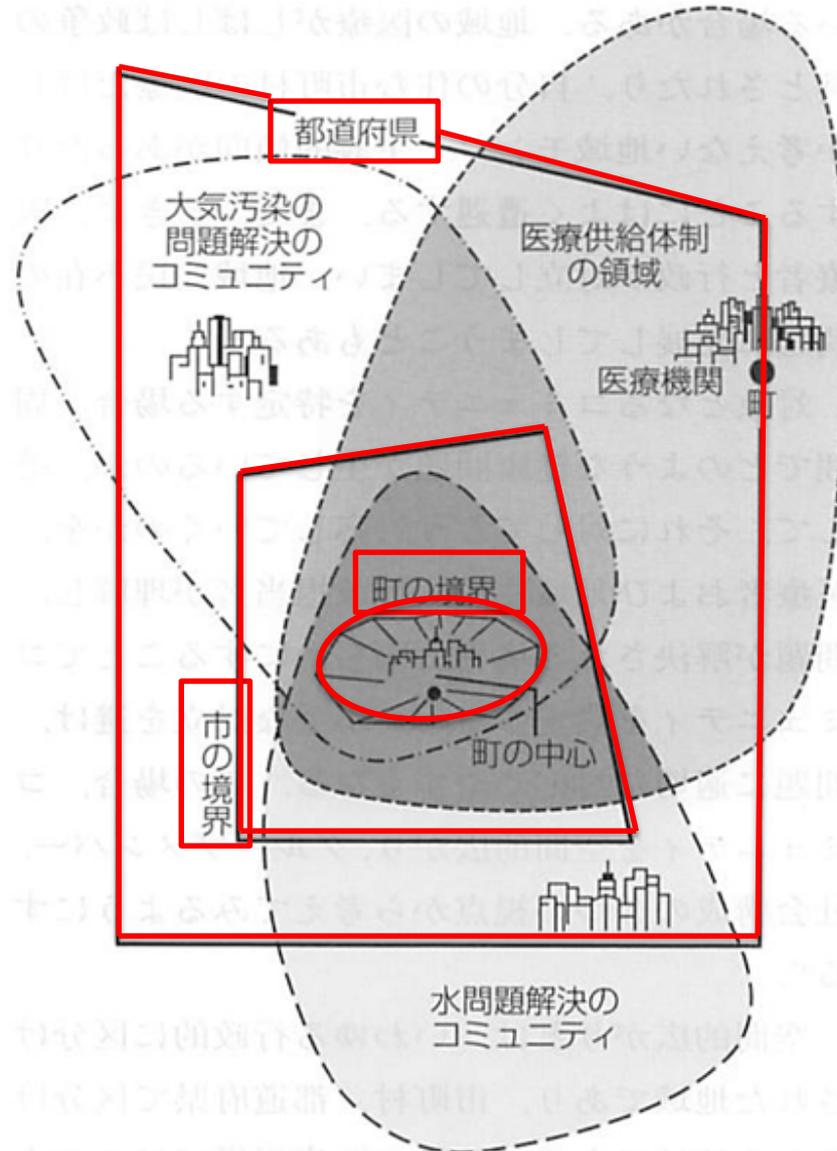
問題解決のコミュニティ



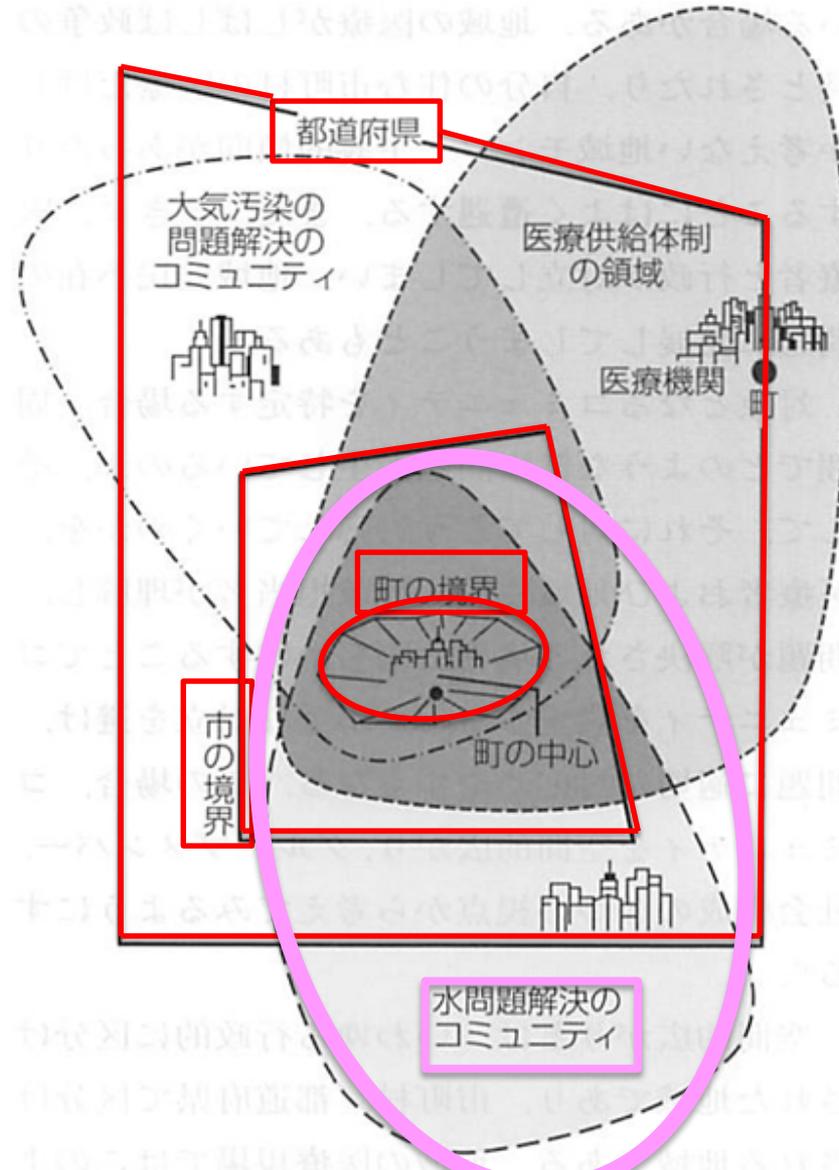
問題解決のコミュニティ



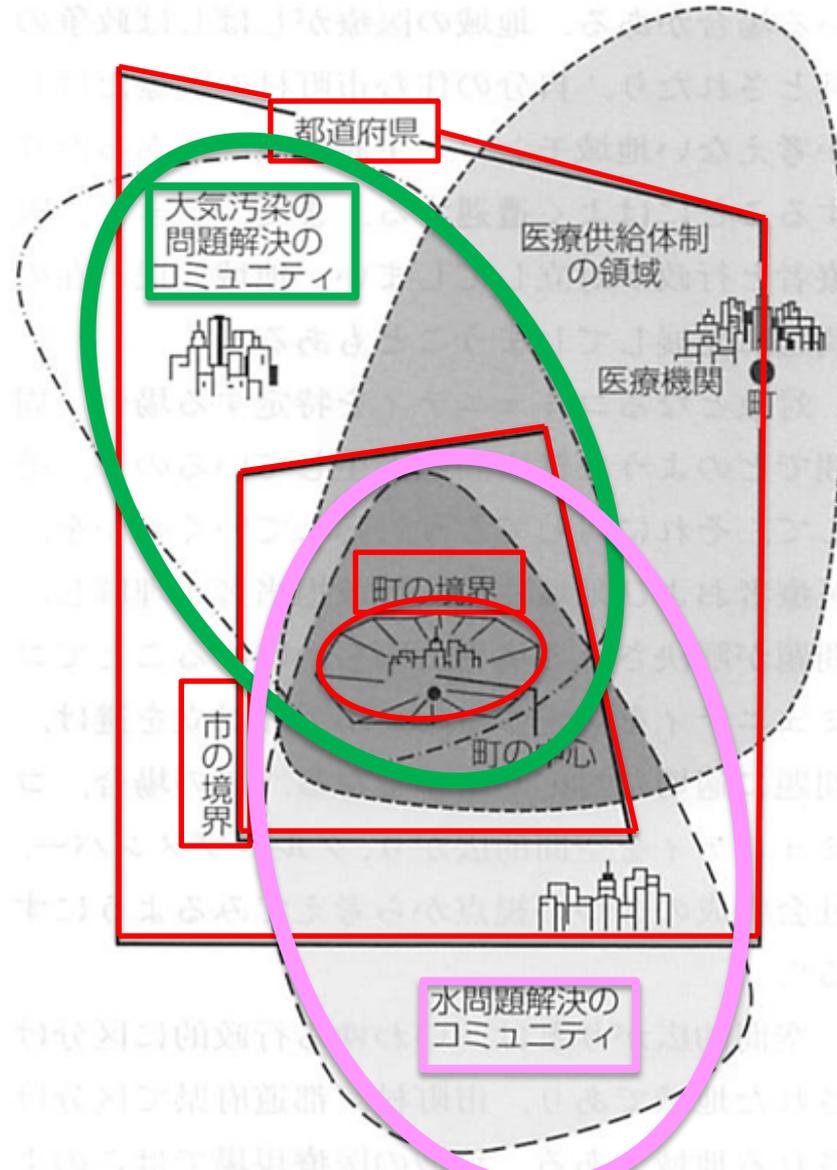
問題解決のコミュニティ



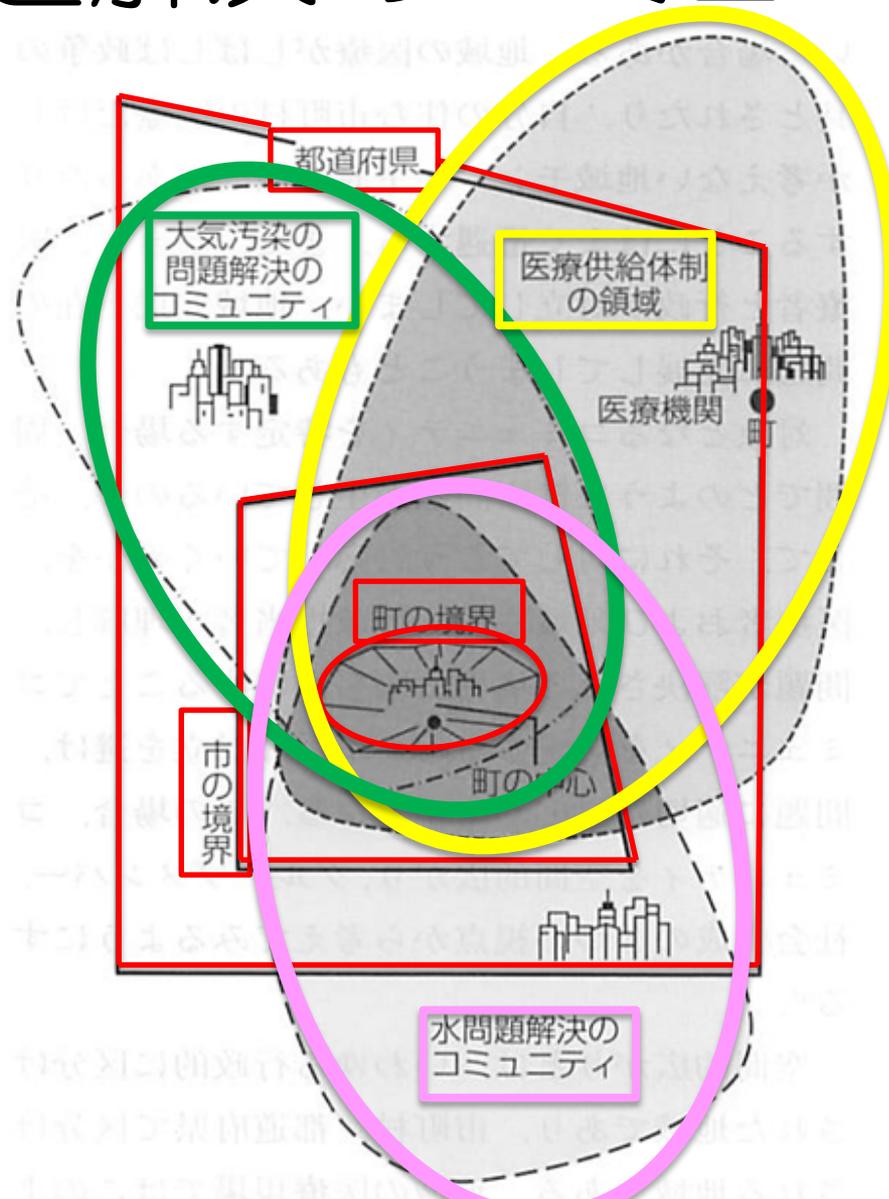
問題解決のコミュニティ



問題解決のコミュニティ



問題解決のコミュニティ



地域医療とは？

限られた医療資源を共有している地域において、

多様で幅広いニーズを抱える個々の患者・住民に対して包括的、継続的な診療を実践すること、

および、

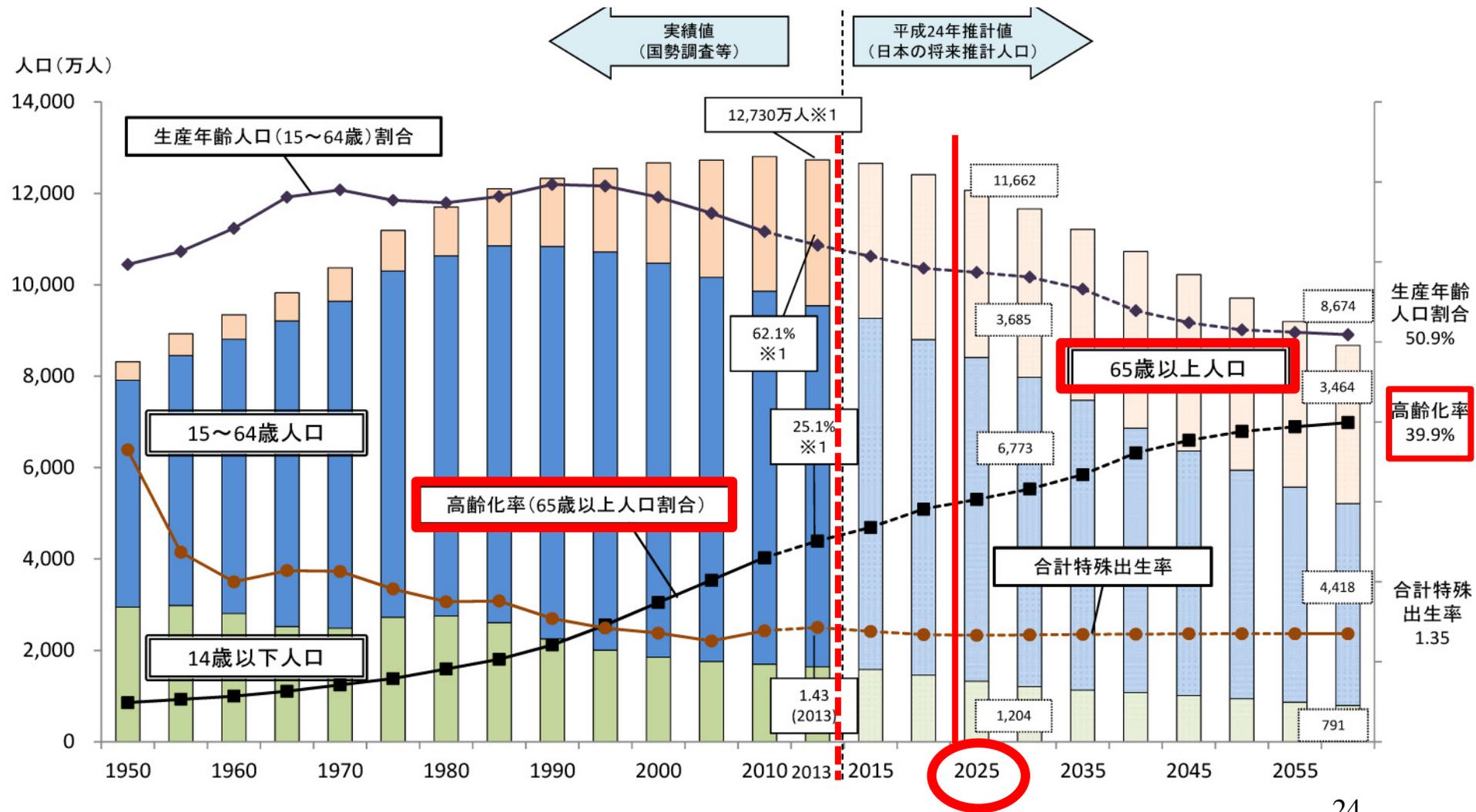
特定の健康危険因子を共有する患者集団・住民に対して適切に介入すること

- 内科診療の知識、技能などの生物医学的能力に基づく**医学モデルでの実践**だけでは不十分である。
- 心理社会的要因をも含めた総合的な**生活モデル（生物心理社会モデル）での実践**が求められること十分に理解して研修に当たるべきである。

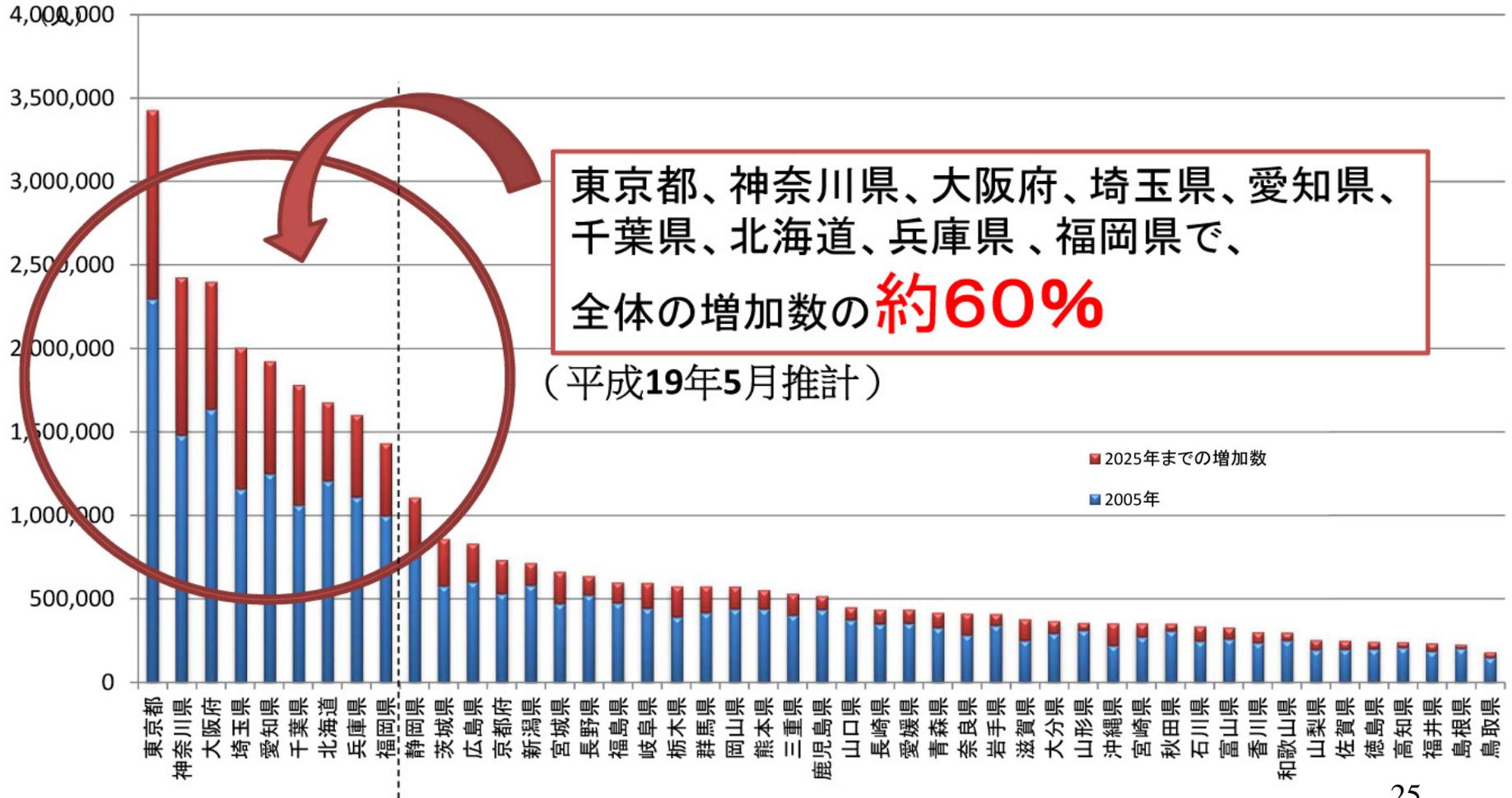
新しい内科専門医制度における 地域医療への取り組み

- ① 地域医療とは何か？
- ② 医療ニーズからみた地域医療
- ③ 申請プログラムにみられる地域医療への
取り組み
- ④ 地域医療研修カリキュラムの提案

日本の人口の推移

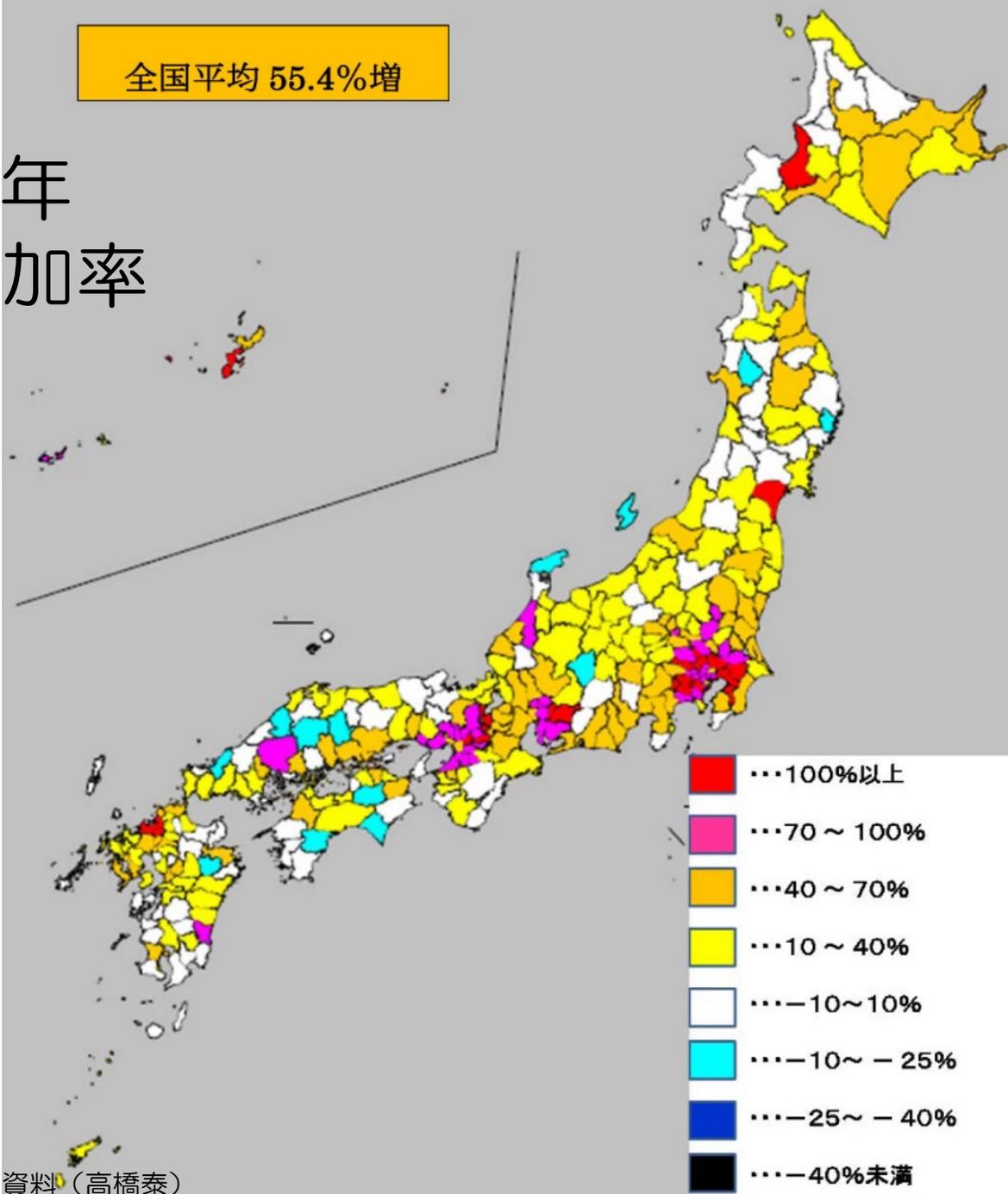


都道府県別高齢者人口（65歳以上）の増加数 （2005年⇒2025年）

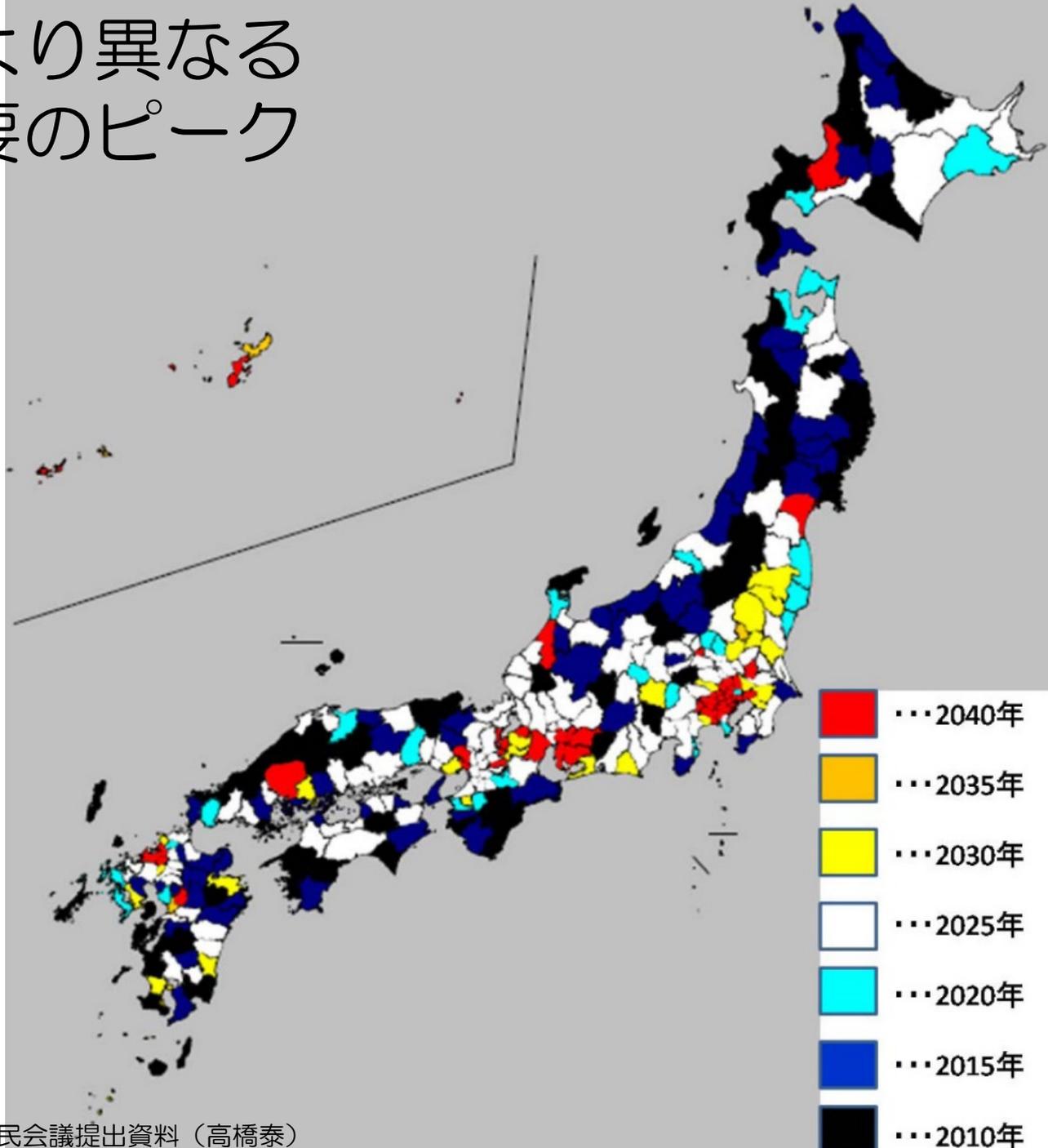


全国平均 55.4%増

2010→40年 75歳以上増加率



地域により異なる 医療需要のピーク

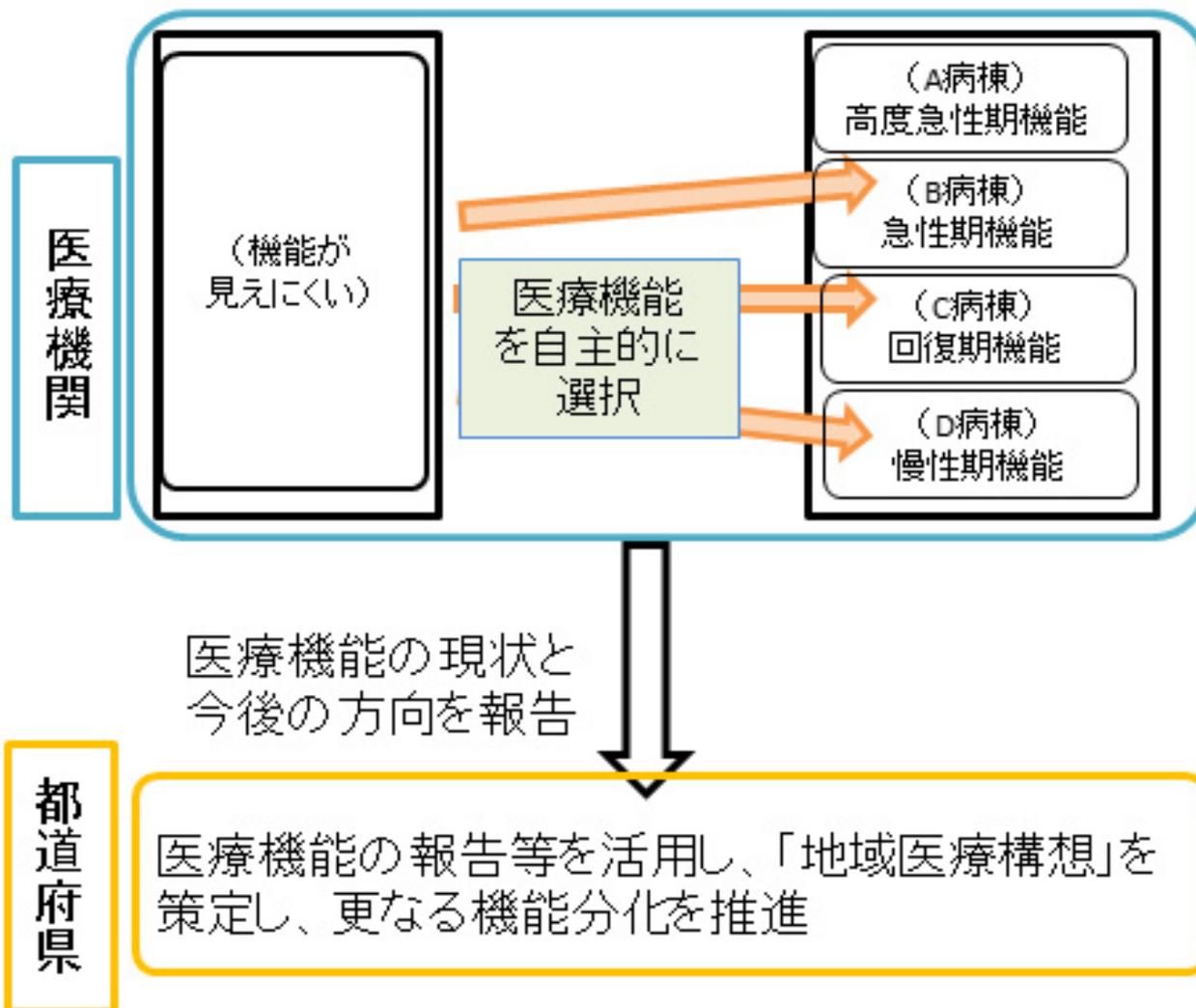


地域医療構想

2025年に向け、病床の機能分化・連携を進めるために、
医療機能ごとに2025年の医療需要と病床の必要量を推計し、定めるもの

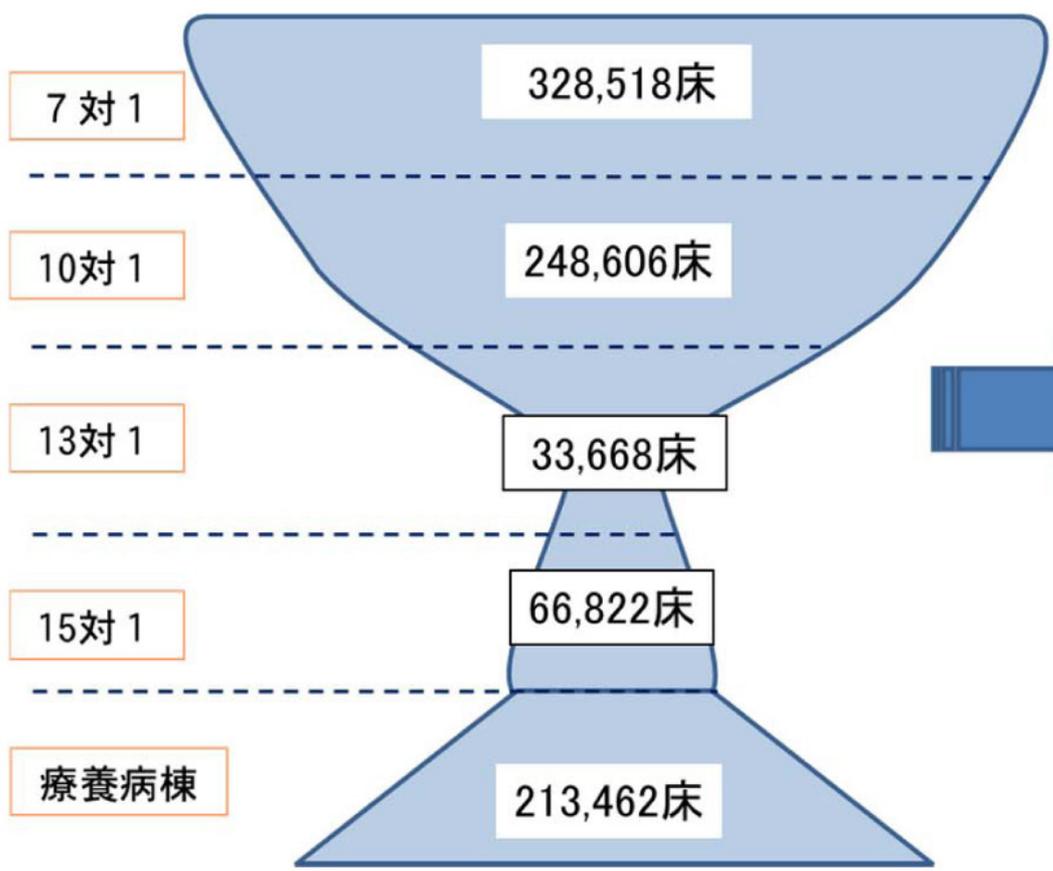
- 2013年08月 社会保障制度国民会議報告書
- 2014年06月 医療介護総合確保推進法
- 2014年10月 病床機能報告制度
- 2015年04月 地域医療構想

病床機能報告制度と地域医療構想の策定

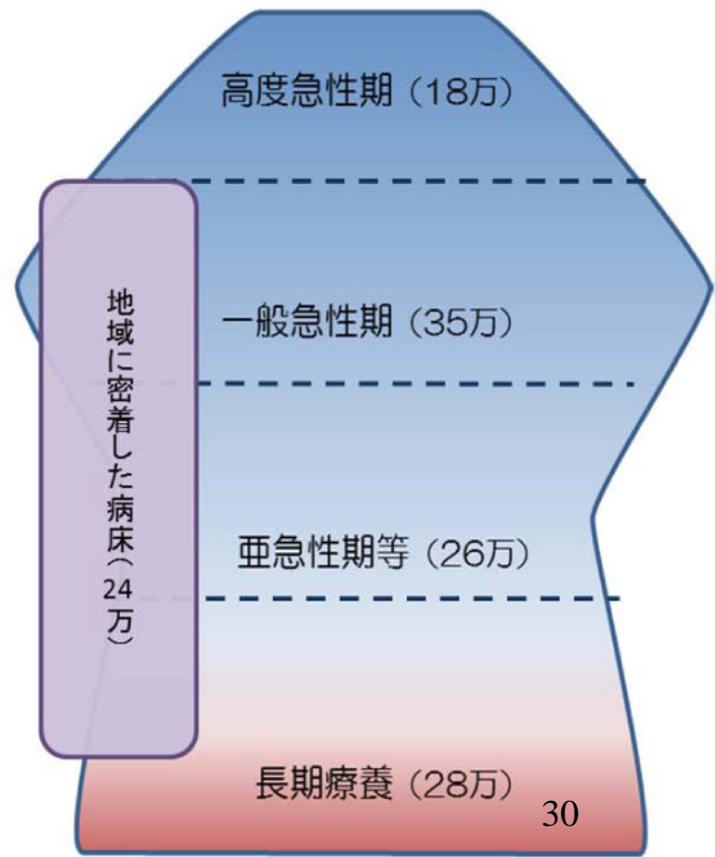


病床機能の役割の分化・連携強化、 在宅医療の推進

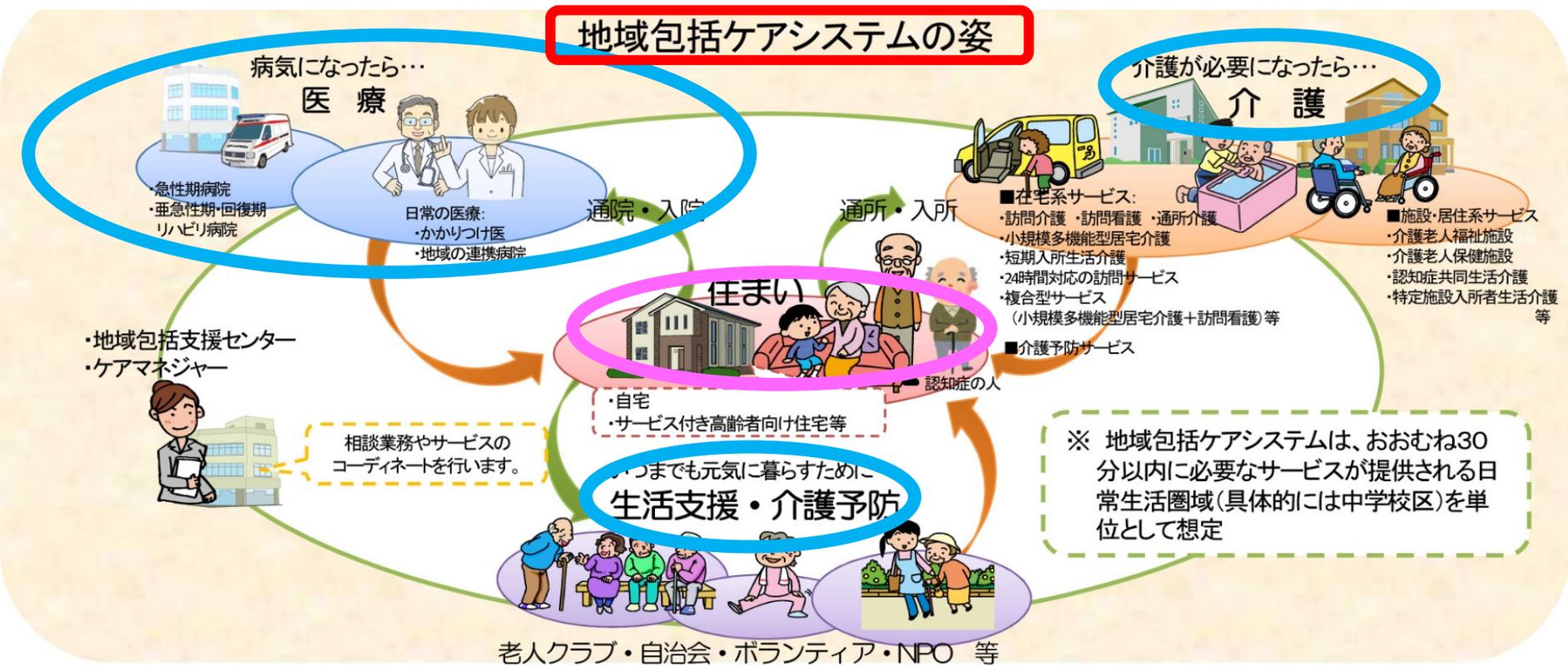
<2010(H22)年の病床数>



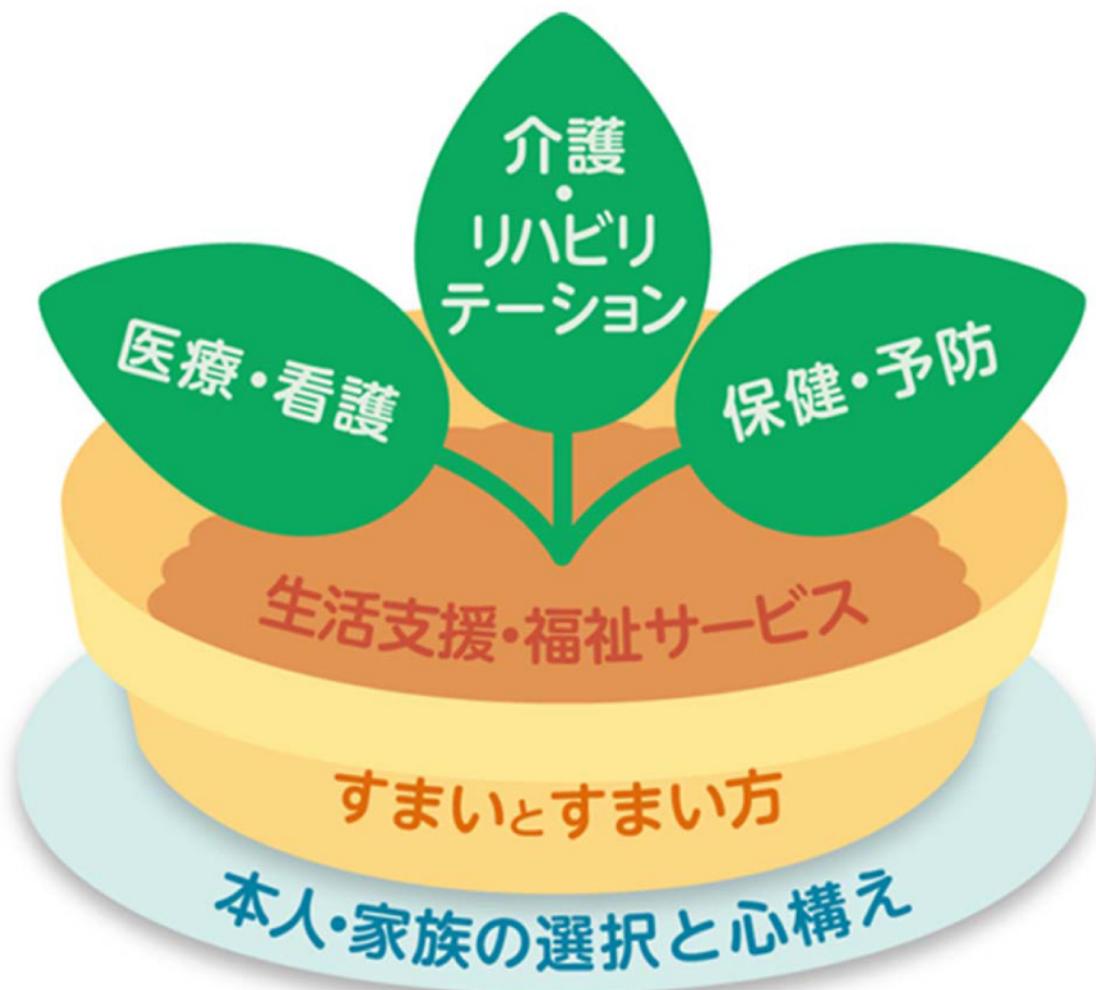
<2025(H37)年のイメージ>



住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるように 医療・介護・予防・住まい・生活支援を 一体的に提供する



支え合いによる地域包括ケアシステムの構築



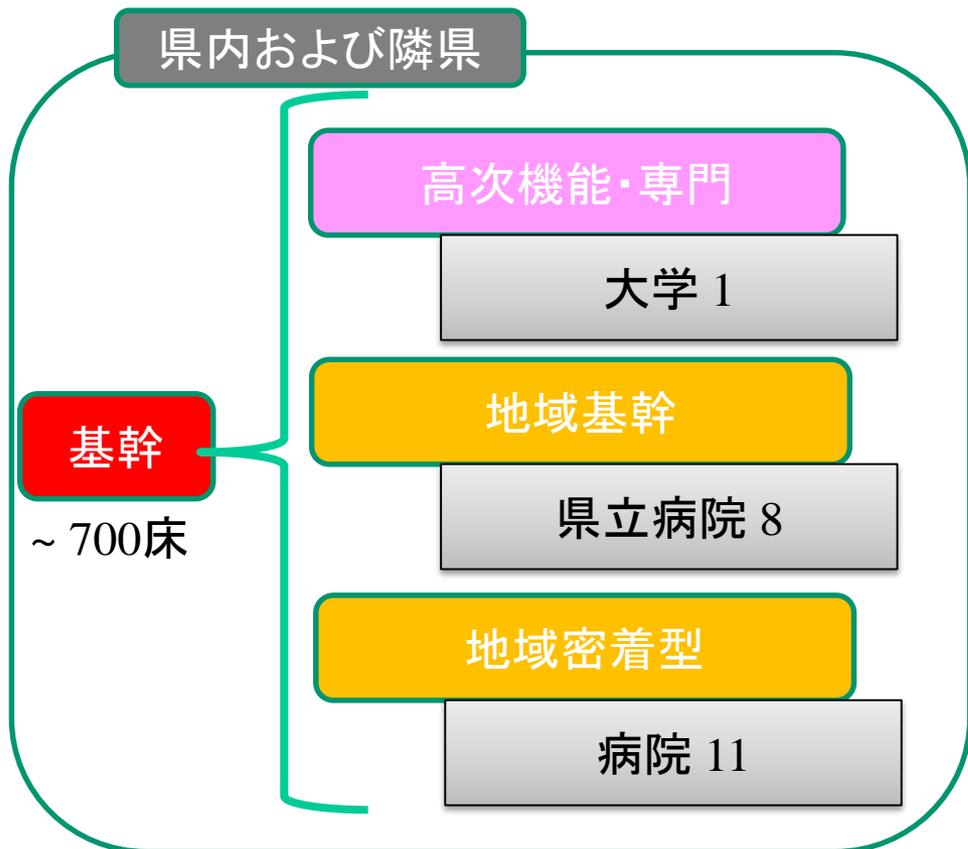
体系化・組織化

自助
互助
共助
公助

新しい内科専門医制度における 地域医療への取り組み

- ① 地域医療とは何か？
- ② 医療ニーズからみた地域医療
- ③ 申請プログラムにみられる地域医療への
取り組み
- ④ 地域医療研修カリキュラムの提案

Aプログラム



1年目				
2年目				
3年目				

- ・Aコース: サブスペシャリティ重点
- ・Bコース: 全科均一ローテート

【経験できる地域医療・診療連携】

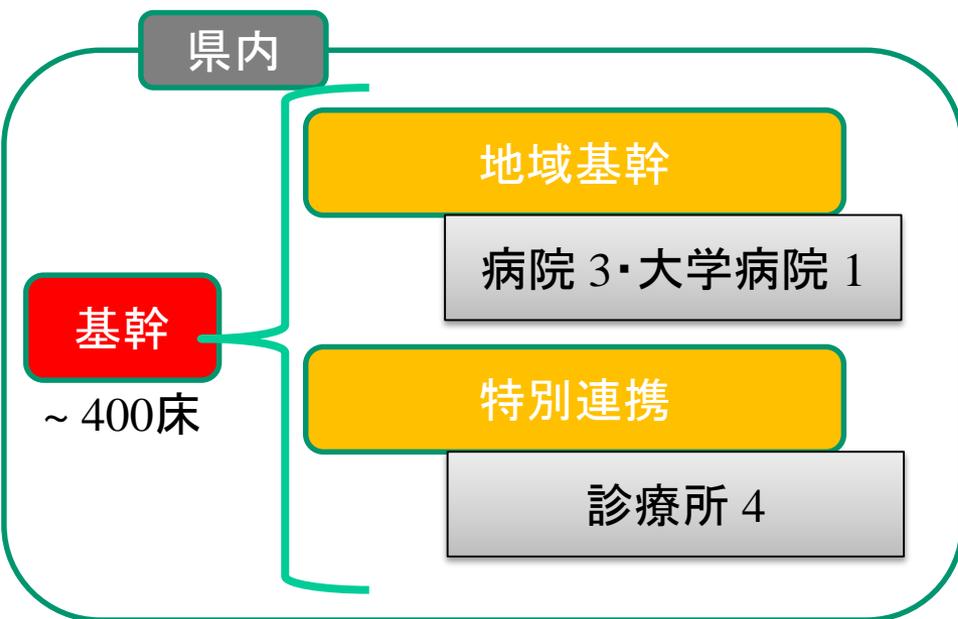
* 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

【地域医療研修の具体的記載】

34

* 一部の施設での訪問診療

Bプログラム



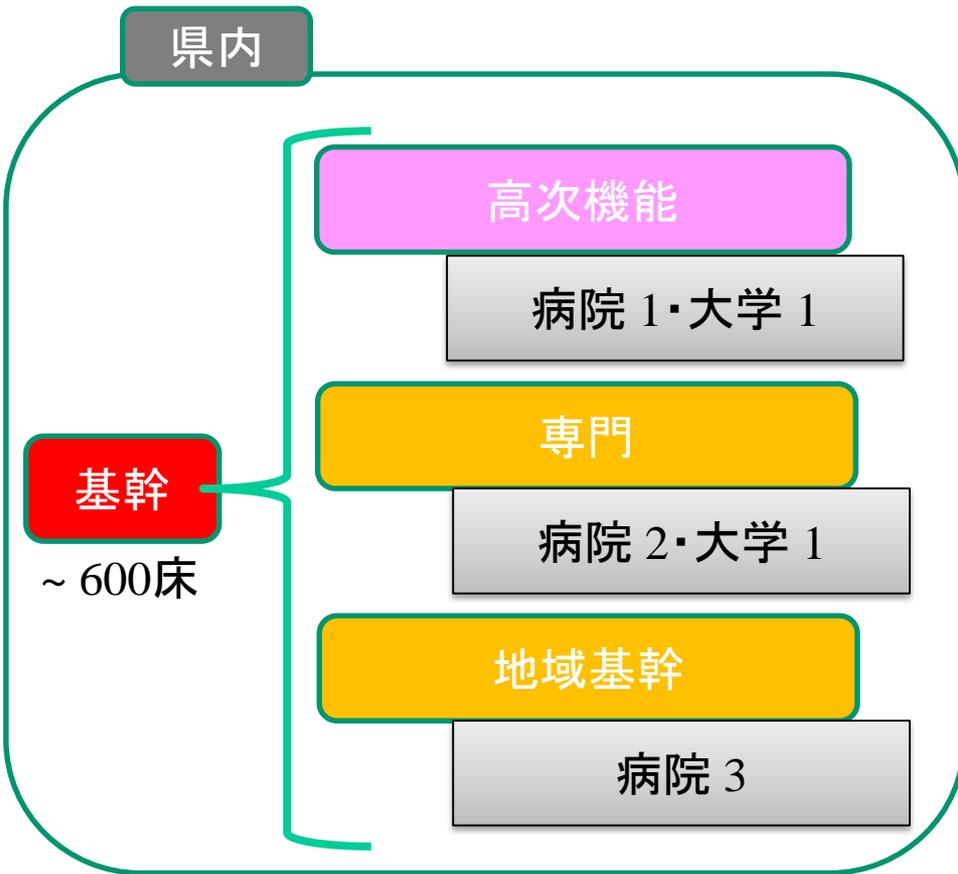
1年目				
2年目				
3年目				

- ・病院総合医コース : 地域基幹
- ・プライマリ・ケアコース : 特別連携

【地域医療研修の具体的記載】

- * 基幹病院での在宅医療・病病/病診連携
- * 連携施設での地域包括ケア、在宅医療、強化型在宅療養支援診療所間連携、介護福祉系事業所との連携、老人ホーム嘱託医

Cプログラム



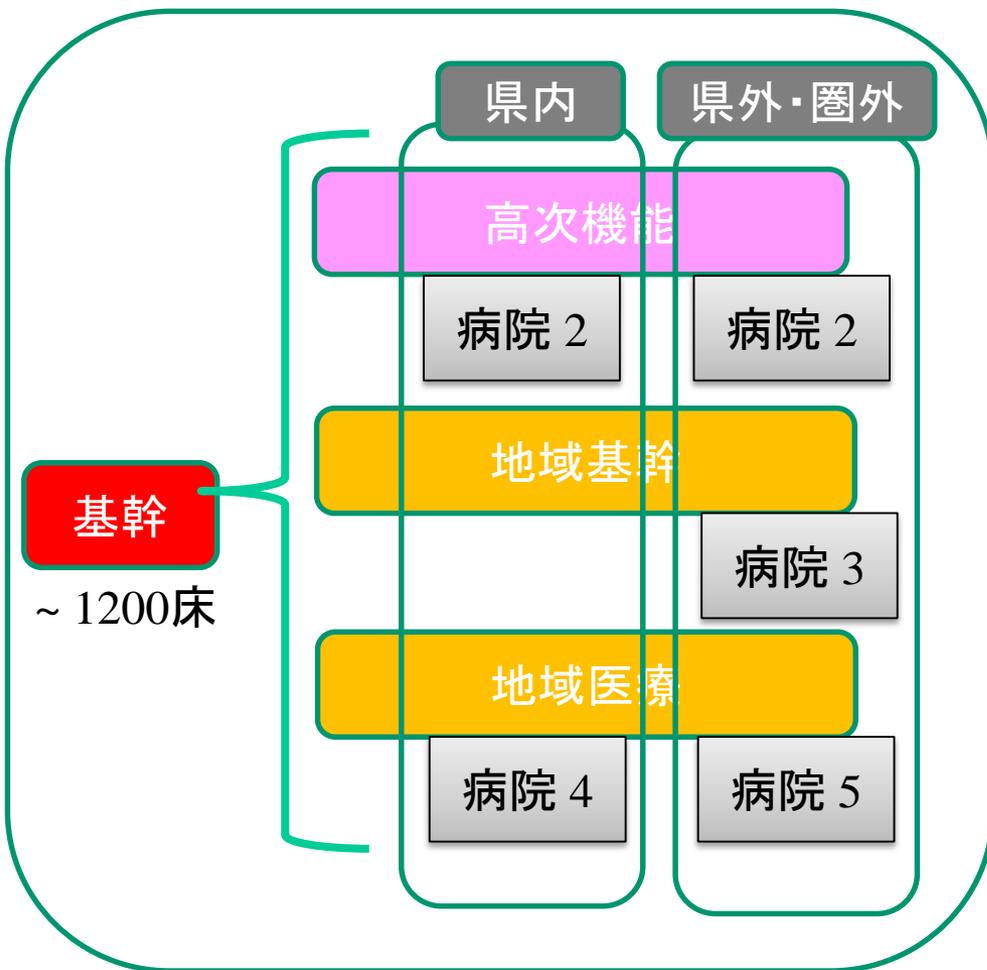
大学

1年目				
2年目				
3年目				

【地域医療研修の具体的記載】

* 療養病棟、救急センターでの研修、慢性疾患の病診連携

Dプログラム

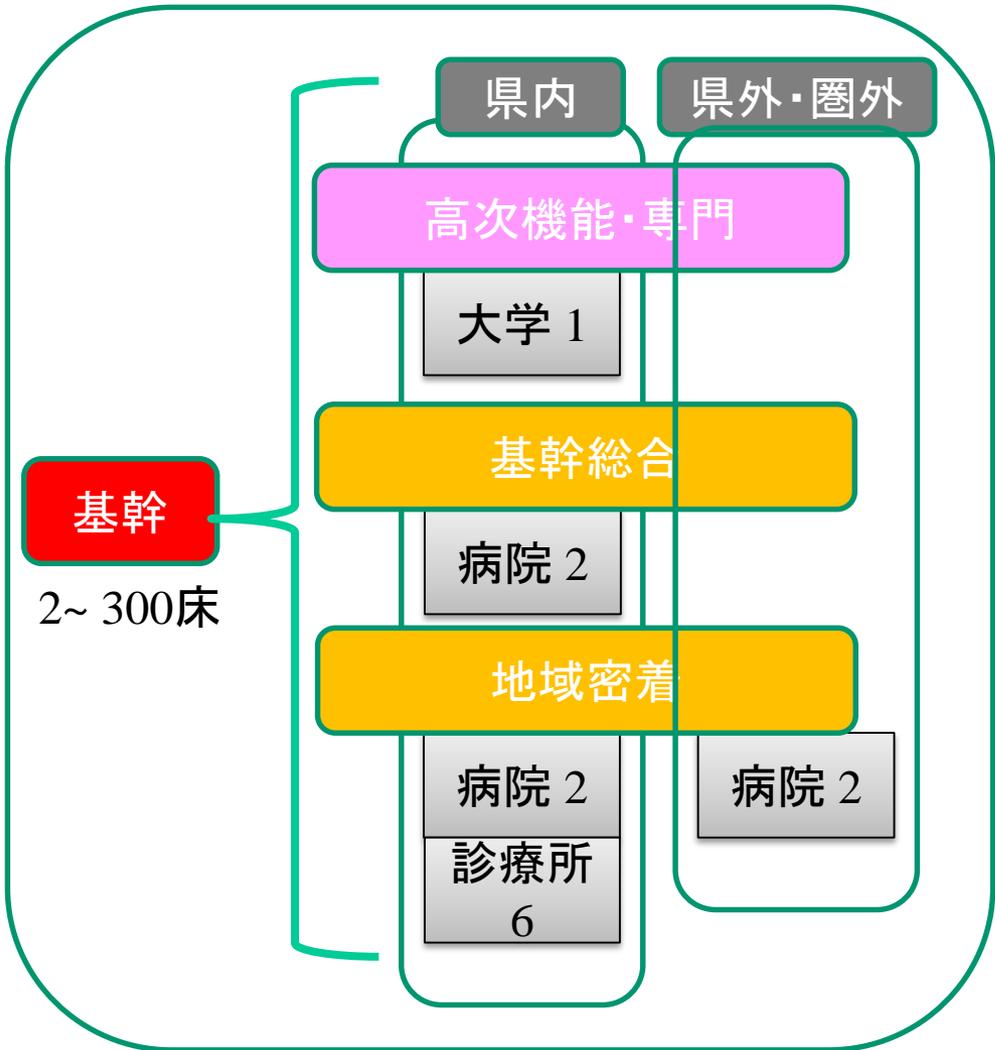


1年目	Red	Red	Red	Yellow
2年目	Yellow	Red	Red	Yellow
3年目	Yellow	Red	Red	Red

【地域医療研修の具体的記載】

- * 県内地域医療施設で
地域包括ケア、在宅医療
- * 県外地域医療施設で
僻地・離島医療

Eプログラム



1年目			
2年目			
3年目			

【地域医療研修の具体的記載】

- * 外来診療で、退院患者のフォロー、慢性疾患医療
- * 訪問診療で、高齢者医療、終末期医療地域
- * 保健予防活動で、健診、健康講話、健康相談会
- * 地域医療機関や介護施設³⁸への橋渡し

Fプログラム

県内および隣県大学

基幹

~ 400床

地域基幹

病院 5

(県北・循環器・呼吸器・緩和/リハ・市内)

大学 1

1年目

2年目

3年目

- ・ジェネラルコース
- ・スペシャリティコース

【地域医療研修の具体的記載】

???

新しい内科専門医制度における 地域医療への取り組み

- ① 地域医療とは何か？
- ② 医療ニーズからみた地域医療
- ③ 申請プログラムにみられる地域医療への
取り組み
- ④ 地域医療研修カリキュラムの提案

到達目標

1. 地域を把握する
2. かかりつけ医として病院外来または診療所外来において継続的、包括的診療を実践する
3. 健康増進活動、科学的根拠に基づいた予防医療を実践する
4. 在宅医療を実践する
5. 地域包括ケアに参画する
6. 病診・病病連携を実践する

1. 地域を把握する

- ① 勤務する医療施設を**利用する全患者の居住地区**を集計したデータを地域医療連携部などの担当者から入手する。
- ② 病院地域医療連携部担当者、行政機関の保健福祉担当者・保健師、などから**対象地域の特徴**の説明を受ける。
または、**行政・文化データ**を収集する。
- ③ 病院地域医療連携部担当者、行政機関の保健福祉担当者・保健師、などから**対象地域の健康問題・健康の社会決定要因**の特徴の説明を受ける。
- ④ 診療を通じて実感する地域の健康問題・ニーズ、健康の社会決定要因を抽出し、**地域医療連携部担当者、行政機関の保健福祉担当者・保健師と意見交換**する。

2. かかりつけ医として病院外来または診療所 外来において継続的、包括的診療を実践する

- ① (臓器別に分けられていない) 内科外来で、週1回程度、1年以上継続して、外来診療(初診・再診)を行う
- ② かかりつけ医として外来で診ている慢性疾患患者の、すべての健康問題(内科に限らない医学的問題、心理社会的問題など)をリストアップし、診療録にサマリーを作成する。
- ③ かかりつけ医として外来で診ている慢性疾患患者の、他の診療科・他の医療機関における処方内容・治療目標を見直しながら、診療録のサマリーに記載する。
- ⑤ かかりつけ医として外来で診ている慢性疾患患者の、地域包括ケアの状況(介護保険利用状況など)を把握し、診療録のサマリーに記載する。
- ⑥ かかりつけ医として再診外来で診ている慢性疾患患者に、診療録のサマリーを適切に提供しながら、健康ファイル活用などセルフマネジメント指導を行う。

3. 健康増進活動、科学的根拠に基づいた 予防医療を実践する

- ① 住民を対象とした健康増進活動（健康講話、住民相談会など）の場で自分で作成した啓発のための資料を用いながら話をする。
- ② 住民を対象とした健康増進・予防のための啓発リーフレットに原稿を書く。
- ③ 健康増進活動に関わる多職種会議参加し意見を述べる。
- ④ 健診・検診活動に参加する（一般診察・特定の診察を実施する、診断結果を患者にわかりやすく記載する、診断結果を患者にわかりやすく口頭で説明する、など）。

4. 在宅医療を実践する

- ① 在宅医療を導入する
- ② 在宅患者の療養計画を策定し、定期的に訪問診察を行う
- ③ 在宅患者の急変時の対応を行う
- ④ 在宅での多職種との連携を行う
- ⑤ 在宅での看取りを行う

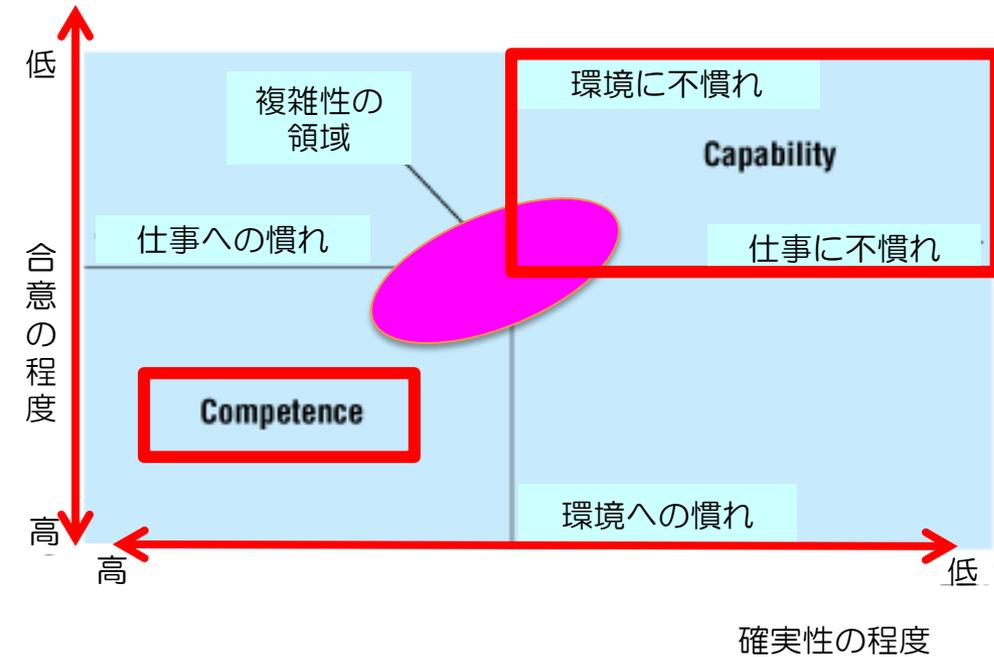
5. 地域包括ケアに参画する

- ① 訪問看護指示書を作成し、その報告を受ける
- ② 院外スタッフも同席する担当患者の退院前カンファレンスに参加する
- ③ 在宅患者・家族との交換日誌（連携ノート等）を用いてケアマネージャーや多職種と連携する
- ④ 地域包括ケアに関わる多職種参加型の研修会に参加する
- ⑤ ICTを用いた地域連携システムに参加する

6. 病診・病病連携を実践する

- ① 新規の入院患者・外来患者の診療に関する情報を得るために、**関係医療・介護・福祉施設の医師・職員に電話などでタイミング良く連絡を取る。**
- ② **退院時サマリー**に、退院後の診療方針に関する具体的な計画を記載し、**関連医療・介護・福祉施設の医師・職員**に提供する。
- ③ 地域内での多施設参加の**連絡会議・勉強会**に出席し、**医療ソーシャルワーカー**等の他施設職員と意見交換し情報を共有する。
- ④ 地域支援病院の「登録医会」など**自施設主催の地域内連絡会議・勉強会**の企画に参加し運営を手伝う。

21世紀のヘルスサービス



求められる能力

Change
Improvement
Response

Changeability
Improvability
Responsiveness

Competence

知識・技能・
態度において
知っている/
できること

Capability

変化に適応し、
新しい知を創
出し、自分の
パフォーマンス
を改善でき
る範囲のこと

不断の変化に対応できる
新内科専門医